

3.6.2 環境設定

XML トランスレータのウィンドウアプリケーションは、起動時に環境設定ファイルの内容を読み込み、情報区分コードの種類、情報区分コードに対応する DTD ファイル名、そして標準コードファイル名の情報を取得します。

ここでは、環境設定ファイルの設定方法について説明します。ただし、環境設定ファイルには、インストール時に適切な情報が設定されていますので、通常は、この内容を変更する必要はありません。

- ・環境設定画面操作手順 (1)参照

- (A) 環境設定ファイルには、ウィンドウアプリケーションで使用する、情報区分コードに対応する DTD ファイル名および標準コードファイル名の情報が格納されています。環境設定ファイルの内容を変更するには、メニューより[ファイル(F)] [環境設定(E)]を選択します。



- (B) 環境設定画面より、DTD ファイル名および標準コードファイルを変更します。

[参照]ボタンをクリックすると、DTD ファイル名を指定するダイアログボックスが開きます。

The image shows the '環境設定' dialog box. It has a table for '情報区分コードとDTDの対応' and a text field for '標準コードファイル'. The '参照...' buttons are circled in red.

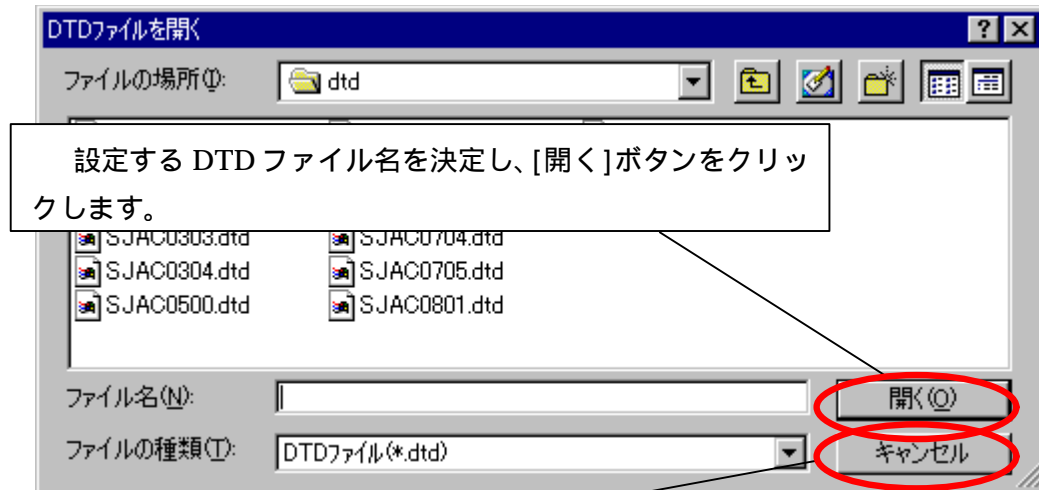
情報区分コード	DTDファイル名
0301 見積依頼情報	SJAC0301.dtd
0302 見積回答情報	SJAC0302.dtd
0303 円貨確定依頼情報	SJAC0303.dtd
0304 円貨確定情報	SJAC0304.dtd
0500 注文情報	SJAC0500.dtd

標準コードファイル
codes.xml

保存

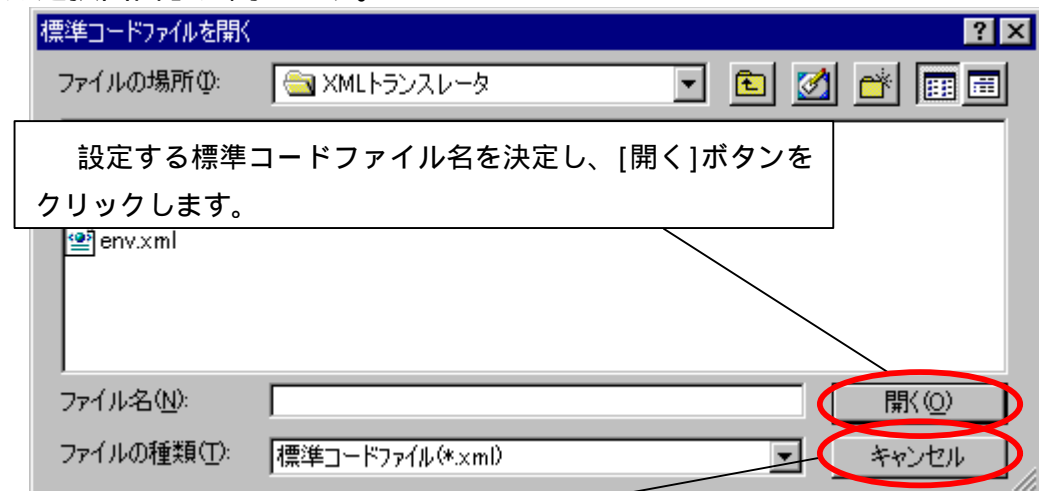
[参照]ボタンをクリックすると、標準コードファイル名を指定するダイアログボックスが開きます。

(C) DTD ファイル名の[参照]ボタンをクリックすると、「DTD ファイル選択画面」が開きます。



[キャンセル]ボタンをクリックすると、DTD ファイル名の設定を行いません。

(D) 標準コードファイルの[参照]ボタンをクリックすると、「標準コードファイル選択画面」が開きます。



[キャンセル]ボタンをクリックすると、標準コードファイル名の設定を行いません。

(E) [保存]ボタンをクリックして、変更内容を保存します。



<注意>

環境設定画面で保存した内容は、XML トランスレータをインストールしたディレクトリに格納されている"env.xml"ファイルに格納されます。

環境設定画面で[保存]ボタンをクリックすると、常に"env.xml"ファイルが上書き保存されます。